

(2024年1月号掲載)

群馬県内在住者の飲酒行動について

群馬経済研究所 副部長 高橋真澄

主任研究員 須藤一麻

調査のポイント

昔から「酒は百薬の長」と言われてきたが、今どきの人は、どのようなお酒を、どのように飲んでいるのであろうか。まず、総務省の「家計調査」を用いて、お酒に対する家計支出の動向を概観し、次に県内在住者へのアンケート結果から、飲酒行動を探ってみた。

要約

○総務省「家計調査」によれば、家庭でお酒を飲む「家飲み」のための支出と、飲食店でお酒を飲む「外飲み」のための支出を合わせた「お酒」への支出は、コロナ禍で急減した「外飲み」への支出が戻り始め、全体でも回復軌道に乗った。

○同調査で、「家飲み」のお酒の種類を22年と18年で比較したところ、お酒の嗜好は多様化する方向に進んでいることがうかがえる。県内（前橋市）は、全国との比較で、「日本酒」への支出割合が高いことがわかった。

○アンケートの結果、お酒を飲む人と飲まない人は、ほぼ半々であった。飲む人について、男性は年代が上がるにつれて飲む人の割合が高まるが、女性は、年代による差異はみられなかった。

○またアンケートでは、お酒を飲む理由等についても、男女間に少なからず違いがあった。男性は嗜好品としてお酒を飲み、女性はストレス解消や人間関係の円滑化の手段として飲む傾向がみられる。